

2023 年度（令和 5 年度）
福山大学 FD・SD 活動報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

目次

はじめに.....	3
1. 第1回FD・SD研修「令和4年度教育振興助成金活用教育研究報告会」報告.....	4
2. 第2回FD・SD研修「第10回福山大学教育改革シンポジウム」.....	6
3. 令和4年度福山大学学部・学科・センターのFD・SD活動報告.....	11
4. 総括.....	25

はじめに

教育基本法はその第 9 条で教員の資質・能力の向上について定めている。曰く、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」「前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。」と。学校教育法のいわゆる 1 条校たる大学の教員が、ここにいう教員に含まれないはずはない。とりわけ、大学を取り巻く内外の環境の劇的な変化の中で教員に求められる資質・能力が高度化し拡大している状況の下、それに対応しうるための研修の重要性は日増しに高まっていると言っても過言ではない。平成 25 年 5 月 28 日に教育再生実行会議はその第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」の中で、①グローバル化に対応した教育環境づくりを進める、②社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する、④大学等における社会人の学び直し機能を強化する、⑤大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する、という 5 つの課題を掲げた。

これからの大学教員に求められる資質・能力とは、これらの課題に適切に対処しうる力であろうし、そのための研修機能ないし FD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実強化がいっそう図られねばならない。

本学では、授業内容・方法の改善、教員の資質・能力向上等、大学教育の質的な向上を目的とした組織的な取り組みとしての FD の重要性が早くから認識され、十数年前から独自の研修が続けられてきている。当初は、教務委員会および自己評価委員会が中心となって企画・運営されてきたが、平成 21 年 4 月に大学教育センターが設置されると、翌々年の平成 23 年（2011）以降は、センターの教育評価・改善部門（平成 26 年度より教育開発部門に改称）がその役割を引き継ぎ、今日に至っている。そのため、「大学教育センター規則」の第 3 条には、担当業務 10 項目のうちの第二として「教育内容・教育方法の改善に係る全学的な企画、推進、組織的な研修（FD）に関すること」が明記されている。同規定に基づき、現在、全学的な取り組みとして、大学教育センター教育開発部門が中心となって、FD 活動を実施している。また、これらの FD 活動については事務職員の参加も奨励しており、テーマによっては SD（スタッフ・デベロップメント）活動にもなっている。

令和 5 年度は、大学教育センター主催の全学 FD・SD 活動を 2 回実施した。また、本学では全学的な FD・SD に加えて、各学部・学科・研究科ごとの特色やニーズに合わせた FD・SD 活動も行っている。本報告書は、令和 5 年度に実施されたこれらの FD・SD 活動の記録をまとめたものである。

令和 6 年 3 月 31 日

大学教育センター センター長 鶴田 泰人

同副センター長 今井 航

同 教育開発部門長 佐藤 英治

同教育開発部門 経済学科 佐藤 彰三、国際経済学科 上林 篤幸、税務会計学科 荒木 利雄

1. 第1回FD・SD研修「令和4年度教育振興助成金活用教育研究報告会」報告

令和5年6月21日（水）、「令和4年度教育振興助成金活用教育研究報告」をテーマとして、今年度の第1回FD・SD研修を大学会館3階ICT教室「CLAFT」にて実施した。発表演題は9演題（12名）で、以下に示す。多くの学科から、各学科の教育における新たな取り組みについて報告があった。

日時：令和5（2023）年6月21日（水）

場所：大学会館3階ICT教室 CLAFT

演題数：9演題（12名）

研修時間：発表開始後1時間

発表形式：ポスター発表、その他

参加者：教員160名（助手23名を含む）、職員1名

- ・ 特色ある教育方法開発助成

No	研究者名 (代表者)	学科	研 究 テ ー マ
1	高野 裕太 (安藤 孟梓) (日下部典子)	心理	公認心理師を目指す大学院生が「心の健康に関する正しい情報を発信する」枠組みの提供 【PERG2022-101】
2	渡邊 正知 他3名	薬	持続可能なICT活用教育の実践 【PERG2022-102】
	(1) (渡邊 正知)	薬	1. 休校時における遠隔授業の実施による継続的な学び 2. 感染レベルに依存しない対面による試験の実施
	(2) (内田 博志)	機械	1. 授業コンテンツの全面事前公開による学習深度の向上 2. レポート課題へのフィードバックによる学習サポート
	(3) (内垣戸貴之)	メディア・映像	対面・遠隔に左右されない協働学習場面の設計
	(4) (記谷 康之)	大学教育センター	授業形式(対面・非対面)に依らないオンライン形式の試験方法の検討
3	Suzuki Heather Anne	大学教育センター	Not letting them fall behind 【PERG2022-103】
4	宮崎 由樹	心理	卒業研究での国際比較研究実施に向けた国外のクラウドソーシングサービス利用可能性の検討とその利用マニュアルの作成 【PERG2022-104】
5	Driussi Cordelia	大学教育センター	芸術を基盤とした生徒の効力感の測定 【PERG2022-105】

※研究テーマ欄のゴシック文字は課題番号である。

- 学生の参加する社会連携活動助成

No	研究者名 (代表者)	学科	研 究 テ ー マ
1	伍賀 正典	スマート システム	学生ベンチャー促進のための社会連携活動強化 【PERG2022-106】
2	佐々木 伸子	建築	びんご建築女子による子ども建築模型教室の活動基盤の構築 【PERG2022-107】
3	大杉 朱美	心理	サイバー防犯ボランティア活動の充実と啓発活動における発信力の強化 【PERG2022-108】
4	濱本 有希	心理	地域安全マップの指導員育成の効率化 【PERG2022-109】

発表はポスターの展示や映像を用いたものなど様々な形式でなされ、活発な討論や意見交換が行われた。雨模様の中であって、前回は大きく上回る 160 名の参加があり、大変盛況であった。直前に開催予定であった全学教授会がメール会議となったため、より多くの教員（3時限目に授業がある教員等がいるため）にご参加いただくため時間帯を 30 分延長した。



2. 第2回FD・SD研修「第10回福山大学教育改革シンポジウム」

第2回FD・SD研修会として、「第10回福山大学教育改革シンポジウム」が開催された。

令和3年6月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の改正法が公布され、令和6年度に施行される。合理的配慮の提供は、私立大学等においてもこれまでの努力義務から義務へと変更になることを受けて、「大学に求められる障害のある学生への支援—その組織的対応のあり方—」をテーマとした。

シンポジウムは、第1部として基調講演、第2部として本学における取組とパネルディスカッションの2部構成とした。また、本シンポジウム（兼研修会）終了後に、アンケート調査を行った。詳細については、後述している。

テーマ：「大学に求められる障害のある学生への支援—その組織的対応のあり方—」

形態：福山大学第10回教育改革シンポジウム

日時：令和5（2023）年9月14（木） 13:00-15:10（休憩10分を含む）

場所：福山大学 大学会館ホール

議事次第： 総合司会：佐藤英治教授

第1部 基調講演（70分）

演題：大学に求められる障害のある学生への支援—その組織的対応のあり方—

講師：京都大学 学生総合支援機構 村田淳准教授

第2部（1）本学における障害のある学生対応委員会の取組紹介（10分）

プレゼンター 鶴田泰人教授

（2）パネルディスカッション（40分）

パネラー：村田淳准教授、平田宏二教授、西彰子准教授、北口博隆教授

進行役：今井航教授

10回目となる教育改革シンポジウムでは、改正障害者差別解消法施行を控えて、この問題への本質的な理解を目指すと同時に、福山大学が取り組むべき課題を明らかにすることができた。ここに大学教育センターの活動報告の一つとして残しておくこととする。

1) 概要

近年、高等教育機関で学ぶ障害のある学生数は増加の一途にあり、福山大学でも様々な支援体制の整備を進めている。在籍する全ての学生にとって、満足度の高いキャンパスライフを提供するためには、障害のある学生への理解を深め、彼らの学習／教育環境を整えていくことも必要不可欠である。

令和3年6月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）の改正法が公布され、令和6年度に施行される。この改正で、合理的配慮の提供が、私立大学等においても義務へと変更になる。

令和5年度の、10回目となる教育改革シンポジウムは「大学に求められる障害のある学生への支援—その組織的対応のあり方—」をテーマとし、令和5年9月14日（木）13:00～15:10に、福山大学の大学会館ホールにおいて開催された。2部構成とし、大学教育センターの教育開発部門の部門長である、薬学部の佐藤英治教授の司会で、以下のように進行的した。

村田准教授の基調講演の内容を要約し、その諸点を以下に列挙する。

- ・障害の定義（障害者基本法）：身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
- ・社会的障壁の定義：障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。
- ・障害者権利条約（国連）：障害者の固有の尊厳の尊重を目的として、権利の実現の措置等について定める条約。2006年国連総会において採択。2008年発効。日本は2007年に署名、2014年に批准。
- ・合理的配慮とは、人権及び基本的自由の確保を目的とする必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。
- ・日本では障害者差別解消法（2016年4月施行）により、教育機関における合理的配慮の提供が義務化。
- ・大学の教育現場では、「第5次障害者基本計画（R5～R9）」に基づき、学生に対する合理的配慮の目標数値を設定し、毎年現状値のモニタリングを実施。
- ・大学の教育現場における合理的配慮の提供は、学長等のイニシアティブの発揮と特定の教員任せにならない組織としての取組が強く求められる（文部科学省）。
- ・高等教育機関における合理的配慮の前に必要な、事前的改善措置：機会の確保、情報公開、決定過程、教育方法等、支援体制、施設・設備。
- ・合理的配慮とは、個のニーズに応じて調整・提供されるものである一方、ニーズの全体像を考慮し全学的に事前に取り組むのが事前的改善措置。（事前的改善措置の例—体制整備、対応要領、施設整備、ソフト整備等）
- ・教育機関の責任としての合理的配慮に必要な要件：（1）明確なルールと情報公開、（2）教育機関と障害のある学生との双方の建設的な対話、（3）妥当性を判断し互いに納得した上で合理的配慮として提供、（4）基本的に、本人や大学関係者の同意なしに提供されることはない。
- ・合理的配慮の内容の決定手順：第1段階—意思の表明、第2段階—建設的対話、第3段階—合意形成。

・(まとめ) 高等教育機関において障害学生支援は「特別」ではなく「当たり前」。「しなければならない」という義務ヘシフト。

第Ⅱ部では、障害のある学生対応委員会の鶴田委員長による、同委員会の取組紹介があり、これを承けてパネルディスカッションが行われた。村田准教授をはじめ、経済学部の中田教授、生命工学部の中田教授、北口教授がパネラーとなり、大学教育センターの中井教授が、その進行役を務めた。

皮切りに、中田・中田・北口の各パネラーから、そうした学生への各支援の事例紹介とそれらを通じて抱える事になった様々な問題点の指摘があった。

このパネルディスカッションにおける議論を通じて、福山大学は創設時からクラス担任制を採用しており、学生が学業や生活上の様々な悩みを気軽に相談できる支援体制を敷いているが、そうした担任制によるきめ細やかな学生支援体制が障害のある学生に対して有効に機能している、という全体的な議論のコンセンサスが形成された。

その一方で、基調講演をいただいた村田准教授から、次のような課題の指摘があった。すなわち、担任制の下で学生対応が属人的、すなわちその教員まかせになってしまうリスクや、担任によって学生対応にバラツキが出てくる可能性がある、という点である。

2) アンケートの結果

終了後、アンケートを実施した。今回のテーマとなった「大学に求められる障害のある学生への支援—その組織的対応のあり方—」への感想を求めたところ、191名の教員から回答が得られた。

先に、本学におけるクラス担任制を通じた「きめ細やかな学生支援体制が障害のある学生に対して有効に機能している、という全体的な議論のコンセンサスが形成された」としたが、次のような意見があったことは、残しておきたい。

- ・担任制度が良いというのは、担任をした経験のない方がいう言葉だと思います。担任に任せることなく「講義を受講してくれている学生をどうしたらうまく合格させてあげることができるのか?」ということ、全教員が考えることができるかどうか、が最も重要です。大学のシステムが重要なのではなく、各教員の意識が最も重要だと思います。何か、抽象的な議論になり、もやもやが残りました。
- ・同じく先に「担任制の下で学生対応が属人的、すなわちその教員まかせになってしまうリスクや、担任によって学生対応にバラツキが出てくる可能性がある」という点が、基調講演をいただいた村田准教授から指摘されたことも、示しておいた。この点でも、次のような意見があった。
- ・これまでどうしても属人的な部分が多いのはやむを得ないと感じており、学生支援室を頻繁に活用しながらも、やはり障害という部分については一歩踏み込んだ対応は困難なのだろうかと思ってしまう。今回のシンポジウムで個人的に感じた「希望」は、専門の支援室を置くことである。これにより、対応や業務が随分と円滑になり、精神的な負担も軽くなるはずである。過去のケースでは、こうした対応を学科から大学に求めたこともあったが、現状はどうな

のだろうか。次年度から必須義務となるのであれば、本学でも是非そのような専門の支援室を設置してもらいたいと思う。

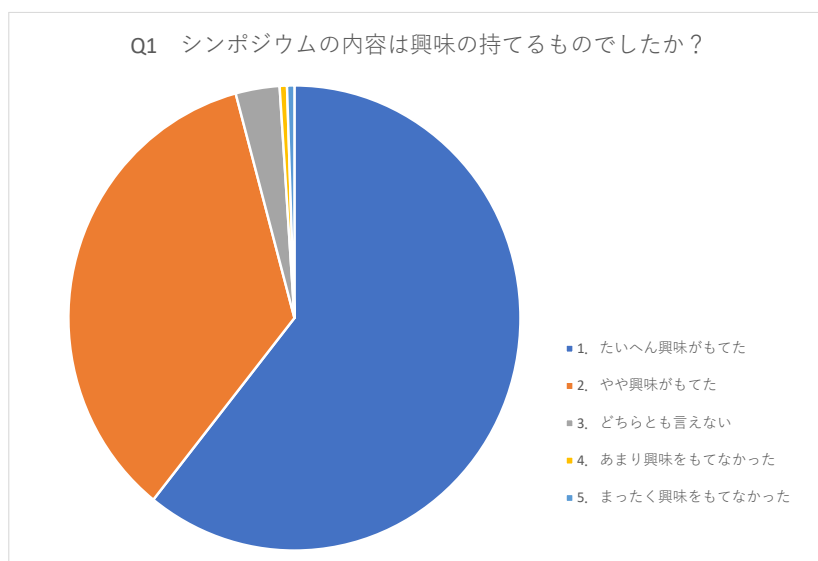
村田准教授の指摘した「リスク」の軽減を求めて「専門の支援室」の設置を必要とする願いが、次の意見にも、同じように見られる。

本学の学修支援が担任ありきの制度であり、個人的には担任の負担が年々大きくなっていて疲弊しているところに、さらに支援が必要な学生が増えて対応を迫られるという話を聞いて不安しかない。大学には2名以上の常勤かつ専任の学修支援専任スタッフを置いて、支援を必要とする学生と担任の両者それぞれと面談や意見交換を月2回程度実施して、支援のノウハウや事例などを蓄積すると共に、担任である教員に対する支援が必要だと強く感じた。

ここでは、より具体的な提案まで示されている。「今のような教員個人の“がんばり”に基づく対応と属人的な体制では、学生も教員も守られません。組織に守られていないのならば、教職員は自分の身は自分で守ることになります」との意見に耳を傾けるならば、その提案は、教員の身を守るためのものとも捉えられるし、次の意見にも見られるように、ほかでもない障害のある学生への合理的配慮を実現しようとするためのものでもある。

何らかの障害を有する学生が増加していることを考えると、大学全体で取り組む問題であるとしても、各大学において窓口&コアとなる独立した専門部署が必要であると感じた。合理的配慮にはメニューとしての基準はなく、個々に応じて検討されるというお話だったので、まずは専門部署における個々の学生と綿密なやり取りが必要であると感じた。

合わせて、その組織的対応のあり方に含めるようにして、次のように関係の「情報提供」を求める意見も数多く見られた。



- ・アウトプットよりインプットへの対応が困難だと思うので、情報提供などいただきたいと思う。
このような相談や、本人への聞き取り、配慮の内容と効果など、定期的なモニタリングを組織的に実施していただけると心強い。
- ・総じて、次の3つの感想から伺えるように、その支援のあり方への理解が深まると同時に、なんのための支援なのかが問われる機会となったようである。
- ・支援の必要な学生への配慮方法などは、以前はボアっとしたイメージしかなかったが、今回の村田先生のお話を伺い、少し霧が晴れたような気持ちになった。
- ・「障害のある学生に関しても、最終目標(学習成果の判定基準)を変えてはいけない。この目的を達成するためのサポートを考える必要がある。」以上の見解に関しては、全くの同感である。
- ・学生への配慮とは、本質を変えることではない(単位認定や卒業要件をゆるめたりすることではない)こと、業務の本分の中で行うべきことなど、明確な指針を示していただき、考えを少し整理することができたと思います。

同アンケートでは、ほかにも、今回のテーマへの興味の程度を問うた。191名の教員から回答が得られた。円グラフに見られるように「たいへん興味をもてた」「やや興味をもてた」を合わせれば、全体の95.8%が今回の内容に興味を持てるものであったとしている。

3) まとめ

障害のある学生に対する支援は、本学に限らず全ての大学において「特別」ではなく「当たり前」のことであるが、担任制を敷く本学の場合は、学生への対応が属人的、すなわちその担任教員まかせになるリスクが存在することを認識することができた。

今回の教育改革シンポジウムを通じて、障害のある学生対応は、従前のように担任が学生への窓口になるのは当然であるが、その対応は組織的に行う必要があり、そのための体制は既に「障害のある学生対応委員会」が構築されているものの、その機能が十全に発揮されるよう、個々の教員間の情報共有や意思疎通が必要不可欠であることが理解できた。

これを機会に、上記の組織的対応が円滑に行われるよう、例えば、教授会等の場を活用し、各教員に対し、情報共有や意思疎通に努めるよう、要請する必要もある。

最後に、今後の教育改革シンポジウムの内容に関する希望調査の結果を付しておく。その希望を最多数から5位までを挙げれば、次の通りであった。

第1位 学生とのコミュニケーションの在り方 (回答数 55)

第2位 学生の学びの様子 (回答数 53)

第3位 教育方法・技術 (回答数 42)

第3位 教育評価 (回答数 42)

第5位 高大接続 (回答数 36)

									向かうのかを考察
2	経済学科	経済学科授業研究（試行） 一地方財政論基礎一	FD	1	01号館 01101教室	令和5年6月29日 13:10～ 14:40	授業担当：佐藤教授 経済学科長	授業参観者 10名	履修登録者142名 改善すべき点等の意見は、セレッソのスレッドへ投稿4件
3	経済学科	（経済学研究会） 株式市場の効率性と流動性の計測	FD	1	社会連携推進センター	令和5年10月13日 18:00～ 19:00	高阪勇毅先生 京都経済短期大学経営情報学科准教授	教員 11名	株式市場の質を評価する代表的な尺度に効率性と流動性に関する計測法を紹介
4	経済学科	ハラスメントについて （第1回目）	FD	1	01号館 各研究室 （ZOOM）	令和5年10月19日 12:30～ 13:00	早川教授 経済学部 長補佐 国際経済学科	教員 18名	研修資料「セクシュアルハラスメントを含む性暴力等の防止に向けた取組の更
5	経済学科	ハラスメントについて （第2回目）	FD	1	01号館 各研究室 （ZOOM）	令和5年10月20日 12:30～ 13:00	早川教授 経済学部 長補佐 国際経済学科	教員 18名 （うち後日対応2名）	なる推進について（文科省通知）」を事前配布し、コメント等を募集。 提出：質問：4件、意見：5件、感想：11件・・・研修後「まとめ」「コメント等」セレッソで共有
6	経済学科	（経済学研究会） ビジネスサービスが高	FD	1	01号館 各研究室 （ZOOM）	令和5年11月10日 12:30～ 13:30	藁谷講師 経済学科	教員 13名	ビジネスサービスと製造業の連携を促進するような政策を支持

		価格製品の輸出に与える影響							する一定のエビデンスを示した
7	経済学科	(経済学研究会) レジ袋の有料化：イングランドと日本の比較	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和5年 12月8日 12:30～ 13:30	楠田教授 経済学部 長 経済学科	教員 15 名	イングランドと日本におけるレジ袋有料化の法的背景と法執行上の具体的スキーム
8	経済学科	禁止薬物事件と今後の対応について (個人懇談の前倒し実施について)	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和6年1 月16日 12:30～ 13:30	佐藤教授 経済学科 長	教員 19 名 (うち 他学科1 名)	事件を受け、学科学生に対する不安解消へ個人懇談の前倒し実施の決定(1月16日～2月15日：97.5%)
9	経済学科	(経済学研究会) 大学スポーツの発展に向けての展望と課題	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和6年3 月15日 12:30～ 13:30	吉田准教授 経済学科	教員 14 名	日本スポーツ界に大学スポーツは多大な影響あり。複数の大学でスポーツクラブの負の側面が露呈。大学スポーツの現状を整理、より充実した活動への課題等について報告
10	国際経済学科	(経済学研究会) 次期SNAに向けた課題と展望－歴史的経緯を踏まえ－	FD	1	1号館 各研究室 (zoom)	令和5年6 月7日 12:30～ 13:30	高山隆夫 (国際経済学科教授)	教員 23 名	国民経済計算(GDP)の集計に関わる現状と課題に関する講義を受け、学科内教員の教育力向上を図った。

11	国際 経済 学科	(経済学研 究会) 株式市場の 効率性と流 動性の計測	FD	1	社会連携セ ンター	令和5年 10月13日 18:00～ 19:00	高坂勇毅 (京都短 期大学経 営情報学 科准教 授)	教員 11 名	金融市場を研究 対象とする他大 学教員の専門分 野の講義を受 け、学科内教員 の教育力向上を 図った。
12	国際 経済 学科	ハラスメン トに関する 研修	FD	1	1号館 各研究室 (zoom)	令和5年 10月19- 20日(2 日間) 12:30～ 13:30	早川達二 (国際経 済学科教 授)	教員 35 名	二日間にわたり バワハラ、セク ハラを根絶する ための取組みに 関し講義を受け るとともに意見 交換を行い、学 科内教員の教育 力向上を図っ た。
13	国際 経済 学科	(経済学研 究会) ビジネスサ ービスが高 価格商品の 輸出に与え る影響	FD	1	1号館 各研究室 (zoom)	令和5年 11月10日 12:30～ 13:30	藁谷達至 (経済学 科講師)	教員 13 名	学部内教員の専 門分野の講義を 受け、学科内教 員の教育力向上 を図った。
14	国際 経済 学科	(経済学研 究会) レジ袋の有 料化：イン グランドと 日本の比較	FD	1	1号館 各研究室 (zoom)	令和5年 12月8日 12:30～ 13:30	楠田昭二 (経済学 科教授)	教員 15 名	学部内教員の専 門分野の講義を 受け、学科内教 員の教育力向上 を図った。
15	国際 経済 学科	海外研修に おける危機 管理とトラ ブル対策	FD	1	01207 教室	令和6年1 月18日 15:00- 16:00	上林篤幸 (国際経 済学科教 授)	教員 7名	海外研修におけ る様々な危機管 理について「ト ップ10海外研 修」や「バリ島 研修」のケース

									も用いて学んだ。
16	国際 経済 学科	ニュージー ランドの概 要	FD	1	01207 教室	令和 6 年 1 月 25 日 15:00- 16:00	上林篤幸 (国際経 済学科教 授)	教員 7 名	国際農産物マー ケットを研究対 象とする学科教 員の講義を受 け、乳製品、果 実、食肉等世界 の主要な農産物 輸出国であるニ ュージーランド に関する理解を 深め、国際経済 学科内教員の教 育力向上を図っ た。
17	国際 経済 学科	(経済学研 究会) 大学スポー ツの発展に 向けての展 望と課	FD	1	01 号館 各研究室 (ZOOM)	令和 6 年 3 月 15 日 12:30～ 13:30	吉田准教 授 経済学科	教員 14 名	日本スポーツ界 に大学スポーツ は多大な影響あ り。複数の大学 でスポーツクラ ブの負の側面が 露呈。大学スポ ーツの現状を整 理、より充実し た活動への課題 等について報告
18	税務 会計 学科	(経済学研 究会) 次期 SNA に向けた課 題と展望－ 歴史的経緯 を踏まえ－	FD	1	01 号館 各研究室 (ZOOM)	令和 5 年 6 月 7 日 12:30～ 13:30	高山准教 授 国際経済 学科	教員 23 名	SNA は今何が 問題となり、 2025 年予定の 次期 SNA 改訂 にむけ、SNA の将来はどこへ 向かうのかを考 察

19	税務 会計 学科	(経済学研究会) 株式市場の 効率性と流動性の計測	FD	1	社会連携推進センター	令和5年 10月13日 18:00～ 19:00	高阪勇毅 先生 京都経済 短期大学 経営情報 学科准教授	教員 11 名	株式市場の質を 評価する代表的 な尺度に効率性 と流動性に関する 計測法を紹介
20	税務 会計 学科	ハラスメントに関する 研修	FD	1	1号館 各研究室 (zoom)	令和5年 10月19- 20日(2 日間) 12:30～ 13:30	早川達二 (国際経済学科教授)	教員 35 名	二日間にわたり バウハラ、セク ハラを根絶する ための取組みに 関し講義を受け ると共に意見交 換を行った。
21	税務 会計 学科	(経済学研究会) ビジネスサ ービスが高 価格製品の 輸出に与え る影響	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和5年 11月10日 12:30～ 13:30	藁谷講師 経済学科	教員 13 名	ビジネスサービ スと製造業の連 携を促進するよ うな政策を支持 する一定のエビ デンスを示した
22	税務 会計 学科	(経済学研究会) レジ袋の有 料化：イン グランドと 日本の比較	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和5年 12月8日	楠田教授 経済学部 長 経済学科	教員 15 名	イングランドと 日本におけるレ ジ袋有料化の法 的背景と法執行 上の具体的スキ ーム
23	税務 会計 学科	(経済学研究会) 大学スポー ツの発展に 向けての展 望と課題	FD	1	01号館 各研究室 (ZOOM)	令和6年3 月15日 12:30～ 13:30	吉田准教 授 経済学科	教員 14 名	日本スポーツ界 に大学スポーツ は多大な影響あ り。複数の大学 でスポーツクラ ブの負の側面が 露呈。大学スポ ーツの現状を整 理、より充実し

									た活動への課題等について報告
24	人間文化学科	学生対応について	FD	1	1号館3階第1会議室	2023年7月5日 15:30～16:00	内垣戸貴之准教授・枝廣和憲准教授（学部FD/SD推進委員会委員）	教員9名（小原・青木・竹村・重迫・原・清水・柳川・村上・古内）	学部FDとして、学修支援に必要な学生への対応について、学科教員全員が参加し、学生とのコミュニケーションの取り方等についてグループ協議を行い、基本的な学習支援のあり方について学んだ。
25	人間文化学科	学部将来構想を踏まえた3学科連携の取り組みについて	FD	1	1号館3階第1会議室	2024年2月7日 15:30～16:00	内垣戸貴之准教授・枝廣和憲准教授（学部FD/SD推進委員会委員）	教員8名（青木・重迫・原・清水・脇・柳川・村上・古内）	学部FDとして、学部将来構想を踏まえた3学科連携の取り組みについて、出張中の1名を除く学科教員が参加し、その具体化に向けてのグループ協議を行い、課題とこれからの方向性について。

								古 内)	
26	人間 文化 学科	学生に関する情報交 換・カンフ ァレンスに ついて	FD	12	1号館4階 資料室	2023年4月 3日14:45 ~15:00,4 月12日 15:30~ 15:45,5月 10日16: 45~17: 00,5月24 日16:30~ 17:00,6月 14日16: 15~16:30, 7月19日 16:15~ 16:30,9月 13日16: 10~16: 20,10月18 日16:15~ 16:30,11 月8日16: 15~16: 30,12月6 日16:10~ 16:20,2024 年1月10日 16:15~ 16:30, 2月14日 16:15~ 16:30	学科長 小原教授 教務委員 重迫教授 学生委員 村上准教 授 就職委員 清水准教 授	教員 9名 (小 原・ 青 木・ 重 迫・ 原・ 清 水・ 脇・ 柳 川・ 村 上・ 古 内)	課題のある学生 と成果が上がっ た学生に関する 情報共有を行う とともに、今後 の指導方針や指 導方法について の意見交換を行 った。

27	心理学科	今年度入学 生から対応 となるコー ス制、 心理臨床演 習・司法犯 罪演習につ いて	FD	1	29号館3階 多目的室	2023年5 月17日 (水) 15:00- 17:10 学 科 会議中の 約30分	心理学科 教員全体 でのディ スカッシ ョン	教員 9名 (助 手2 名含 む)	新たな取り組み となるコース制 の運営方法につ いて、教員間で アイデアや要検 討事項を話し合 った。
28	心理学科	心理学科 web ページ の デザインリ ニューアル について 1	FD	1	29号館3階 多目的室	2023年12 月26日 (火) 15:30- 17:10 学 科 会議中の 約1時間	心理学科 教員全体 でのディ スカッシ ョン	教員 8名 (助 手1 名含 む)	リニューアル予 定の学科web ページがより高 校生に訴求する デザインや構成 となるよう意見 を出し合った。
29	心理学科	心理学科 web ページ の デザインリ ニューアル について 2	FD	1	29号館3階 多目的室	2024年1 月24日 (水) 15:00- 18:00 学 科 会議中の 約1時間	心理学科 教員全体 でのディ スカッシ ョン	教員 11 名 (助 手2 名含 む)	前回より更新さ れた学科web ページ案のデザ インや構成につ いて、改めて教 員間で意見を出 し合った。
30	メディア・映像学科	シラバス点 検を兼ねた FD	FD	1	オンライン	令和5年 12月20日	内垣戸貴 之(メデ ィア・映 像学科准 教授)	教員 7名	シラバスを点検 しつつ、学科の 教育目標を確認 し、各教員の授 業における中項 目との対応状況 を共有できた
31	スマートシステム学科	定員確保の ために	FD	43	02205 およ び Teams	毎週木曜 日	香川直己 教授	教員 10 名	毎週木曜日夜刻 の学科会議内 で、定員確保に むけた取り組み をテーマに、他

									大学の取組や社会情勢に関する話題に基づいた意見交換を行っている。(継続中)
32	スマートシステム学科	今後の電気系教育について	FD	1	2205	令和5年9月28日 (金)	香川直己 教授	教員 9名	9月25日にオンラインで実施された、第74回大学電気系教員協議会の内容を展開し、意見交換を行った。
33	建築学科	退学者を出さないために	FD	1	Zoom	令和6年2月27日 11:30～ 12:00	都祭弘幸 (建築学科教授)	教員 10名	退学者に関するデータを共有・意見交換を行い、対策を検討した。1年前期GPA・リーダーチャートを活用した学生指導、教養ゼミでの面談実施などを実施していくこととなった。
34	情報工学科	情報工学科IR	FD	1	04201	令和5年12月6日 16:30～ 17:00	尾関孝史 (工学部教授)	教員 9名	資料により、学生の入学時の状況、GPA、資格取得等の多面的な側面から、データを用いて分析、検証、今後の学生指導等の考察を得た。

35	情報 工学科	教育改善等 に関する FD	FD	1	04201	令和6年2 月9日 16:00～ 16:30	金子邦彦 (工学部 教授)	教員 8名	情報工学科カリ キュラムの将来 計画の立案。教 育の充実の方向 性の計画が深ま った。
36	機械 シス テム 工学科	新入生アン ケート結果 の分析	FD/SD	1	オンライン	令和5年5 月2日 ～令和5 年5月15 日	加藤昌彦 (工学部 教授)	教員 8名	新入生アンケー トから、次年度 入学者増加のた めの活動の指針 について、有意 義な意見を交わ すことができ た。
37	機械 シス テム 工学科	授業研究	FD	1	2421	令和5年 12月11日 10:50～ 12:20	中村格芳 (工学部 准教授)	教員 8名	「生産加工シス テム」を参観 し、意見交換を 行った。授業の 進め方の講評な らびに、種々の アドバイスによ り、次年度の改 善につながる意 見交換ができ た。
38	生物 工学科	学科名称変 更申請に向 けた準備に ついて	SD	1	17号館1階 講究室	令和5年4 月26日 (月)16:00 ～16:30	山本覚・ 岩本博行 (生命工学 部・教授)	教職 員8 名 (助 手1 名含 む)	文部科学省に申 請する学科名称 変更について、 今後の日程や作 業内容、方針等 について議論し た。
39	生物 工学科	生命工学部 外部評価委 員会のフィ ードバック	SD	1	17号館1階 講究室	令和6年1 月29日 (月)16:30 ～17:00	岩本博行 (生命工 学部・教 授)	教職 員8 名 (助	生命工学部外部 評価委員会の内 容の中で、生物 工学科に関する

								手1 名含 む)	内容を紹介し情 報共有した。
40	生命 栄養 科学 科	学科コース 制の設置に ついて	SD	1	18号館1階 セミナー室	令和5年 10月30日 13:30～ 15:00	菊田安至 (生命栄 養科学科 教授)	教員 12 名 (助 手5 名含 む)	新たな設置する コースと教育課 程のつながりを 整理し、運用の 詳細を議論し た。
41	海洋 生物 科学 科	学科教育カ リキュラム の改訂につ いて	FD	1	16号館3階 1631室	令和6年2 月28日 14:30～ 16:50	北口博隆 (海洋生 物科学科 教授)	教員 13 名	令和7年度から 適用する学科カ リキュラムにつ いて議論し、カ リキュラム編成 の方針と今後の 予定を定めた。
42	薬学 科	IR委員会か らの報告と 今後の学生 指導につい て	FD	1	未来創造館 3階110302	令和5年4 月28日 13:00～ 13:40	小嶋英二 朗(薬学 科教授)	教員 46 名 (助 手7 名含 む)	入学学生の入試 形態の違いによ る進級状況等の データとそれら の解析結果につ いて講演しても らったことで、 今後の学生指導 に対する方向性 を教職員間で共 有できた。
43	薬学 科	これからの 福山大学薬 学部教育を 考える ー薬剤師養 成の視点か らー	FD	1	34号館2階 34201教室	令和5年9 月11日 13:00～ 16:30	今井啓介 (興生総合 病院) 藤井正道 (株式会社 シーエッ チジー)	教員 43 名 (助 手6 名含 む)	薬学教育モデ ル・コア・カリ キュラムの改定 に伴い、薬剤師 養成の視点から 本学薬学部の今 後の教育の在り 方を考える為に

									講演と教職員による SGD を通して、本学独自の強みなどの意見交換ができた。
44	大学 教育 セン ター	授業に関する経験的認識の可視化	FD	1	01206 講義 室	令和 5 年 6 月 7 日 17:30～ 18:00	小野太幹 (大学教 育センタ ー准教 授)	教員 21 名 (助 手 1 名含 む) 事務 職員 1 名	「授業に関する経験的認識の可視化」について研修した。
45	大学 教育 セン ター	第 1 回授業 研究「英語 I」	FD	1	01320 教室	令和 5 年 6 月 13 日 (火) 14:50～ 16:20	松本陵磨 (大学教 育センタ ー講師)	教員 5 名 (助 手 1 名含 む)	授業を観察した。
46	大学 教育 セン ター	第 1 回授業 研究批評会	FD	1	01322 教室	令和 5 年 6 月 14 日 (水) 12:15～ 13:00		教員 12 名 (助 手 1 名含 む)	授業公開した授業について、その内容・方法に関する意見を交換した。
47	大学 教育 セン ター	第 2 回授業 研究「生活 文化史」	FD	1	C0201	令和 5 年 10 月 26 日 (木) 13:10～ 14:40	村上亮 (人間文 化学科准 教授)	教員 6 名 (助 手 1 名含 む)	授業を観察した。

48	大学 教育 セン ター	第2回授業 研究批評会	FD	1	01322 教室	令和5年 10月27日 (金) 12:15～ 13:00		教員 9名 (助 手1 名含 む)	授業公開した授 業について、そ の内容・方法に 関する意見を交 換した。
49	大学 教育 セン ター	第3回授業 研究「中国 語II」	FD	1	01209 講義 室	令和5年 12月14日 (木) 10:50～ 12:20	劉国彬 (大学教 育センタ ー准教 授)	教員 6名 (助 手1 名含 む)	授業を観察し た。
50	大学 教育 セン ター	第3回授業 研究批評会	FD	1	01322 教室	令和5年 12月18日 (月) 12:15～ 13:00		教員 10 名 (助 手1 名含 む)	授業公開した授 業について、そ の内容・方法に 関する意見を交 換した。
51	共同 利用 セン ター	ICT 活用 教育の実践 例の紹介 (1回目)	FD	1	Zoom	令和5年8 月22日 13:30～ 15:00	1.BISSET IAN JAMES 先 生(国際 経済学科 教授) 2.金 子邦彦(情 報工学科 教授) 3.真田誠至 (海洋生 物科学科 講師)	専任 教員 3名	各教員の授業の 改善に役立てる ことを目的とし て、ICT を活用 した授業の実践 例を聴講した。
52	共同 利用 セン ター	ICT 活用 教育の実践 例の紹介 (2回目)	FD	1	Zoom	令和6年2 月26日 13:30～ 15:00	1. 向井勝 也(大学 教育セン ター特命	専任 教員 3名	各教員の授業の 改善に役立てる ことを目的とし て、ICT を活用

							講師) 2. 安田暁 (メディア・映像 学科教授) 3. 井上裕 文(薬学 科 教授)		した授業の実践 例を聴講した。
53	共同 利用 セン ター	令和5年度 各層別サイ バーセキュ リティ研修 の成果につ いて	SD	1	15号館3階 AV室	令和6年2 月19日 16:30～ 16:40	瀬島紀夫 (共同利 用センタ ー講師)	共同 利用 セン ター 運営 委員	令和5年度各層 別サイバーセキ ュリティ研修 (文部科学省主 催、令和5年 12月4日～12 月6日実施)へ の参加報告があ り、サイバーセ キュリティにつ いて研修した。

5. 総括

令和4年度のFD・SD活動は、令和3年度に引き続きCOVID-19の蔓延予防の観点から、一部オンデマンド方式を導入して実施されたが、令和5年度は、対面方式やオンラインなど、状況に応じて、多様な方式で実施された。学部・学科・センターのFD・SD活動は、表1に記載のとおり多様なテーマのもと開催された。

本年度で第10回を迎えた教育改革シンポジウムでは、令和3年6月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の改正法が公布され、令和6年度に施行されることを受け、合理的配慮の提供が、私立大学等においても義務へと変更になることから、教職員間で情報共有を行うことができた。本研修のアンケートでは、本学における課題について様々な意見をいただいた。今後本学での支援のあり方について、さらなる充実・改善に向けた参考にしていきたい。